

卒業生からの手紙

vol. 4

河村さんの
思い出の
1枚



高校2年生の時、休み時間のひとコマ
(写真左が河村さん)。

「筑女で学んだ」という思いが 自分のアイデンティティを 培ってくれました

高校OG・河村純子さん(河村能舞台/能楽おもしろ講座主宰)

修学旅行で行った京都が 仕事の場になるとは…

京

都に住んでいる私は、修学旅行生を中心に一般の方、外国の方、企業の方などに「能楽おもしろ講座」という能のワークショップや講演を、年間160回ほどさせていただいています。40年前に修学旅行で京都へ行った私が、その京都でこんな仕事をするようになるなんて、夢にも思いませんでした。

が8年前に亡くなった時には、仕事を休んで駆けつけてくれ、3日間あれやこれやと助けてくれました。聖典の歌に「身を粉にしても報ずべし」という言葉がありますが、文字通りの彼女たちの働きには感謝のみです。

若い方に「オンリーワン」の 本当の意味を知ってほしい

こ

れまで約18万人に「能楽おもしろ講座」を受講していただけで最近感じるのは、生徒さんが幼稚化してきていることです。ここで「幼稚化」というのは、その人の在り方や生き方の指標になる、つまり日本人としての自覚が少なくなってきたという意味です。「グローバルな人材」とよくいわれます

が、「グローバル」って一体何でしょうか？グローバルな人材とは、「まずしっかりと自分自身のアイデンティティを持ち、その上で相手のアイデンティティを認め、意見を交わせる人」です。「Only One」とよくいいますが、そこに存在しているだけで誰でもOnly Oneになれるわけではありません。能では何千回、何万回という基本の稽古を積んで、初めてその意味がわかるようになります。自分の中にその意味を取り入れ、ようやく人と違う花を咲かせられるようになります。それがOnly Oneであり、自分のアイデンティティだと思うのです。そのことを伝えていくのが私の使命ではないかと思いい、出会った生徒さんが社会に出て、10年、20年後の日本を支える人材になってほしいと願っています。私にとって筑女は特別な意味を持つ大切な存在であり、筑女で学んだという思い、い

高校時代は登山部に入り、九州本土の山はほとんど登りました。卒業の折にその友人たちと、毎月千円ずつ積み立てて旅行に行こうということになり、積立金はその後値上げになったものの、この3月にはトルコで楽しい日々を過ごして来ました。主人



【Profile】かわむら・じゅんこ(旧姓:飯田)
●1974(昭和49)年卒(高等学校)後、同志社大学文学部文化史学科を卒業。故・河村信重氏(観世流シテ方重要無形文化財保持者)と結婚後、河村能舞台の運営に携わり、「能楽おもしろ講座」を開始。NPO能楽普及協会理事、池坊文化学院教員、京都精華大学評議員。

【能楽おもしろ講座】
<http://www.kid97.co.jp/kawamura/index.html>

わば「筑女アイデンティティ」があると実感しています。どうぞ、筑女生というアイデンティティとその時に培った志を大切に、これからの人生に色とりどりの大輪の花を咲かせてください。最後に、私の好きな言葉をプレゼントします。
『人生に自動ドアはありません』